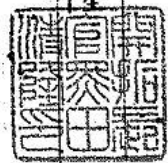


三百圓宛當使定額經費内ヨリ交際手當トシテ御渡相成
度此段上請候也

明治十四年四月六日

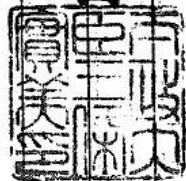
開拓長官黒田清隆



太政大臣三條實美殿

上申趣難聞届候事

明治十四年五月三十日



内閣書記官局批第五四号

北海道漁業資本貸與ノ義伺

北海道ノ漁業昔時ハ專ラ請負人ノ占有ニ帰シ新移起
業ノ妨碍甚キヲ以テ建使以來務メテ其積弊ヲ洗除シ
各自營業ノ自由ヲ與ヘシモ該業者多クハ資力ニ乏ク
其供給他借ヲ請ハサルヲ得ス是ヲ以テ貸借上遂ニ一
ノ餘習ヲ存セリ夫レ其貸借タル多クハ現貨ニ非スシ
テ所謂仕入品乃チ米塩漁具等ノ物件ナリ之ニ格外ノ
價格ヲ付シ更ニ之ニ重息ヲ加フ而其償還ハ必ス産物
ヲ充テ幾割引ノ低價ヲ以テ決算ス貸借上ノ餘習各
ラスト雖モ今之ヲ概論スルニ仕入品ハ通價ニ一割
分乃至割ヲ増タル者ヲ原價トシ之ニ月式分ノ利
ヲ加フ又其償還ニ先ル所ノ産物ハ一々年金百圓
ニスルヲ以テ之ヲ合算スル時ハ一々年金百圓ニ對
利子九四乃至六十ハシ故ニ漁業ニ相當ノ利益アル

モ終ニ其利ヲ失ヒ積年勞苦猶自家ノ資力ヲ増シ債主ノ束縛ヲ脱スル能ハス苟モ此積弊ヲ釐革セサレハ將來漁民ヲシテ自立營業ノ基礎ヲ立テシムル能ハス亦該業ヲ擴充シ海產ヲ旺盛スルノ目的ナキヲ以テ從來臨時ニ官金貸與ノ便法ヲ施シ遂ニ明治十一年ニ至リ漁業資本貸與規則ヲ設ケ漸次其額ヲ増加シ金四拾九萬圓余ヲ供フ其方法タル漁民財產乃チ漁場漁具等其多寡及ヒ前三年漁獲平均高ヲ調査シ且漁場漁具等其抵當ニ充ツハキ者ノ通價ヲ積算シテ其價格ノ五分乃至六分マテヲ標準トシ資金貸與額ヲ定メ利子年壹割貳分ト定メ其五分ヲ官收シ六分ヲ積金トシテ年々之ヲ貸與額ニ加ヘ而其加ヘタル高ニ當テ官金ノ出貸ヲ遞減シ壹分ハ取扱ノ費用ニ充ツ積金ヨリ生スル利子

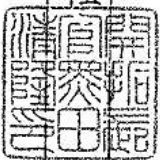
ハ壹分ノ諸費ヲ除ク外ハ皆積金ニ加ヘ第拾三年目ニ至リ當初支出ノ官金ヲ遞減シ盡シ更ニ官貸ヲ廢シ其積金ハ利子ヲ納メタルモノ、共有ニ歸シ永ク此規則ノ精神ニ因リ益之ヲ皇張シ漁獲物ノ輸出仕入品ノ購入其他該業ノ利益ヲ振起スルノ主義ナリ第一表ニ官金増殖ノ計算ヲ掲ク積本則施設以來年猶淺シト雖其方法ノ適實ヲ得タルヨリ官毫モ損スル無ク民大ニ得ルアリ人皆此法ノ全道ニ普及セリヲ希望シ爭フテ貸與ヲ乞フモノ年ニ其多キヲ加ヘ昔日他借ヲ仰キ其苛刻ニ苦ム等ノ患害ナキヲ以テ漁民等歡喜皆自立ノ志念ヲ起シ力ヲ漁業ニ專ニシ樂ニテ此恩惠ニ報スル所アラニトス尤モ此等ノ義ハ到底人民ノ自辨ニ委ニ置キ成丈官廳ヨリ干渉セサルノ旨趣ニハ候得共今ヤ中道ニシ

テ廢止スル時ハ漁民等其向フ所ヲ失ヒ忽チ資本ノ窮乏ヲ告ケ再ヒ債主ノ牽制スル所トナリ其利益ヲ壟斷セラレ漸ク將ニ減セントスルノ積弊再ヒ其慘狀ヲ見ルニ至ルヤ明ニシテ結局漁業ノ衰頽ヲ來ス固ヨリ論無キナリ然ニ明年一月ハ本使定額金交付年限満期ニ當レルヲ以不得止本年中ニ悉皆乏ヲ徴收セサルヲ得ス果テ然ルハ今ヨリ既ニ之ヲ告知シ豫メ明年ノ資本ヲ準備セシムルノ餘地ヲ與ヘサルヘカラス然ト雖且既ニ是迄貸與ヲ請クル茲ニ四ヶ年今俄ニ他ノ債主ヲ需ル固ヨリ容易ナラス且鯨漁資本貸出期節ハ毎歲十一月其半額ヲ貸與シ來レルヲ以最早充分ノ猶豫無之且二三銀行等ノアルアリト雖モ未タ此等ノ融通ヲ裨補スルノ餘裕ナキヲ以テ遂ニ明年需用諸仕入品等

購入ノ期ヲ誤ルハ眼前ノ儀ニ付不堪苦慮候本使定額満期後該施政ノ更革如何ニ拍ハラス特別ヲ以大藏省ヨリ直接貸與相成利子ノ割合其他右規則中適宜更正ヲ加ヒ他日人民結社等ヲ以テ資本貸借融通ノ便利ヲ得ルニ至ルマテハ繼續施行相成候様致度尤拙者義御巡幸御先發トシテ近日北海道ノ渡航可致ニ付夫々都合モ有之候間出發前伺之通御允裁相成度此段至急相伺候也

明治十四年七月廿二日

開拓長官黒田清隆



太政大臣三條實美殿

同ノ趣本年ノ度ニ於テ貸與スル金四
拾八万五千五百餘圓ハ大蔵者ニ返納スルキ
兌換證券ヲ換元金貳百五十万圓ノ内ヲ
以テ貸付方可取計事

但該貸付金ハ十五年六月迄ニ悉皆返
納候儀ニ心得

明治十四年八月九日



漁業資本貸與規則

本道ハ海産ノ利洪大ナルヲ以テ漁業ヲ營ムモノ其富
殖ヲ致ス亦太ク難キニ非ラスト雖モ資本ノ供給備
ハラサルカ為メニ資ラ他ニ仰クモ其息ノ重キト産物
價格ヲ減シ償還ニ充ルトニ因テ常ニ格別ノ利益ヲ失
ヒ困難ニ至ルモノ歎ナカラス從來官ヲ貸与ノ舉アリト
雖モ未タ盛業ノ域ニ至ル能ハス故ニ自今該業ヲ振興
シ永遠自主ノ基礎ヲ固クシ前途ノ困難ヲ免レシ
メンカ為メニ尚官金ヲ出貸シ積金ノ法ヲ定ム其増加
スルニ隨ヒ漸次官貸ヲ遞減シ終ニハ其積額ヲ以テ資
本ニ供ヒ余アルニ至ラシメントス此積金タルヤ官之レヲ保
護シ永遠ノ該業者ノ公有ニ歸シ自己ノ費用ニ充ル
ヲ許サス規則ヲ設クルヲ左ノ如シ

桐野斐物兼取取所

第一條

漁業資本貸与ノ金額ハ追々増加スヘシト雖モ先本廳管内ノ三萬圓
函館根室管内ノ各々万圓トシ其請求スル者ニ分貸スヘシ

但各廳直轄ノ郡民ハ民事(馬)其他ハ各分署ニ於テ調査ノ上貸付(係)ニ報
告スマシ
本条貸与金額ハ追々増加シ現今四萬八千五百圓余出貸
相成居候度

第二條

資金人民所有ノ財産并一期取獲ノ產物ヲ抵當トシ之ヲ貸與ス而シテ
償還ハ各自ノ望ミニ任セ正貨又ハ產物ヲ以テ毎區ニ戸長之ヲ管督シ
其返済ヲ保任スヘシ

但本年ノ產物凶歉又ハ災害ニテ不得止事故アルハ其顛末ヲ詳
悉シ三ヶ年賦ヲ越ヘサル年賦返納ヲ許スヘシ其正貨或ハ產物ヲ以
テスルハ本条ニ異ナルナレ

第三條

資金ヲ貸与スルハ民産興起自立ノ基礎ヲ固フスル為ナルハ其年令割ニ分
ノ利ヲ納メシノ内五分ハ官收シ六分ハ資本積金トシテ年々貸渡ノ額ニ加
ス而シテ其金額ヲ官貸ヲ遮減シテ分ハ取獲ノ諸費ニ充テ積金高
ヨリ生スルノ利子ハ五分ノ諸費ヲ除クノ外右積金ハ増加スルモノトシ
終ニ其積金ヲ以テ資本ニ供シ余アルニ至ラシムヘシ且官金出貸ヲ
減シ尽キタル後ノ出納方法ハ其時ニヨリ更ニ審定スヘシ

第四條

產物ヲ以テ償還スルハ鯿(漢況ニヨリ胸鯿及身欠鯿)鱒(昆布乾鮑)
ハ勸内局ヲ資本貸与方ニシテ以テ之ヲ除ク右物品返納ノ地ハ各郡納稅ノ箇所ニ於テスマシ
但本条貸与ヲ受クルモノハ償還物品ノ數額ヲ豫定シ完納ニ至ラサ
ル内ハ他ノ販賣ヲ許スヘカラスト雖モ若正貨上納ヲナスガ為メニ收穫產
物ヲ販賣セント欲スルモノハ別ニ所有動不動産ノ内或ハ漁具等ヲ以テ抵當
ニ充テ區戸長ヲ以テ保証セシムヘシ

第五條

物品價格ハ該地ノ正金賣買相場(慣習ノ立)ヲ以テ貸典金母子ヲ合計
決算ノ上之ヲ受取リタル後現品拂下貸渡等ノ順序ヲナスベシ

第六條

取扱順序

資金ヲ貸典セントスルトキハ各分署(各縣直轄ノ郡村ハ)ニ於テ該地区
戸長ニ命ジ資力ノ多寡ヲ檢知シ上中下ノ三等(自己ノ資力ヲ以テ營
抵当物ヲ所持シ資金ヲ他ニ仰クモノヲ中等トシ檢当品ヲ所持セス)ニ
區分シテ下
聖年收穫ノ產物ヲ以テ資金ヲ他ニ仰クモノヲ下等トス
等ノモノヲ順次情願ヲ推糾シ三人乃至五人ヲ一組トシ保証人
連署(第一号)ノ顔面ハ戸長奥印ノ上分署ニ取纏ノ審査不都合ナ
キハ其事情ヲ詳悉シ之レヲ貸付(課)ニ送ルヘシ

但本條ノ金額ハ建細度枚ニ付三百円ヨリ多カラサル金額ヲ

兩度(人夫雇入ノ際)ニ区分シ(課)ノ証書ト引換貸与スル

第七條

償還ニ物品ヲ以テスルハ其期ニ至リ貸付(課)官負出張シ分署又ハ巡部官
負ニ依議受渡ノ地ニ就テ區戸長總代等主會品位鑒別秤量改查ノ上
凡貸与金母子ニ對照スヘキ數額ヲ受取ノ便宜輸出ノ港灣ニ解下小
廻シノ配リヲナシ他日過不足拾遺算ヲナスル

第八條

物品積取船ハ函館ニ於テ手配スルキニ因リ各地輸出ノ品目數量
及回船ノ本所積取期限等ヲ豫定シ貸付(課)ニ通告シ(課)ニ
於テ調理製表(書式)ノ上函館支廳ニ移シ回船ノ手續ニ及ビ高
現場ニ望ミ時々電信等ヲ以テ報知スル根室支廳ニ於ルモ直ニ
本條ノ處分スル

第九條

積取ノ船舶各地ニ到達セハ出張貸付(課)官負直ニ積取ノ處分スル
リ(第四條雜)送り状ヲ下付シ其時々寫ヲ以テ該(課)並ニ函館

開拓使事務官又及所

會計課報道スル

第十條

償還ノ物品輸出ニ至ル迄ノ受渡及ヒ人民ニ對スル貸付金母子ノ計
 算等ハ(貸付)ニ於テ明細簿記整理スルニシテ雖モ順序輸送ノ產物船長
 受證書ヲ添付(簿)ヨリノ報告ニ隨ヒ函館會計課ニ於テ之ヲ管理シ物
 品販賣ノ代價及輸送ノ經費等出入詳記毎船差引計算金圓
 一月各廳貸付(課)ニ送リ總決算後一括統計表ヲ作り領布
 手續ヲ成シ各廳貸付(課)ニ於テ管内總計明細表ヲ調製シ人
 民ニ廣告スル

第十一條

物品販賣ノ後々々年純益金割込(損失アルトキノ價)若シ超過スルト
 夫其超過ノ半高ヲ別ニ蓄積シ造船費(漁民ノ共)ニ充テ半高ハ諸費組公
 有トス

一金四拾八萬八千五百円余

漁業資本金

内 金貳拾五万円

札幌分

内 金拾五万八千五百円余

函館分

内 金八万円

根室分

表一第
表 美 計 減 進 金 官

費 諸 取 扱	積 蓄	扱 官	金 利	金 元	分 區
					度 年
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	年 初
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 二
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 三
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 四
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 五
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 六
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 七
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 八
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 九
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 十
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 一 十
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	目 年 二 十
000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	000,000,00	計

此表ハ元金四拾萬圓ノ年率割式分利付ニテ貸付ケ年々生スル積蓄
積額ヲ以テ進減シタル十二年間ノ元金其他概計ヲ掲ゲ

Vertical text in a separate column on the right side of the page, likely a continuation of the report or a separate section.

表 二 第

表 算 計 殖 増 金 積

費 諸 取 取	積 蓄	金 利	金 元	分 區 度 年
				年 初
				目 年 二
〇〇〇,〇四二	〇〇〇,〇四六二	〇〇〇,〇八八二	〇〇〇,〇〇〇,四二	目 年 三
〇〇〇,二九四	〇〇〇,二一四五	〇〇〇,四〇九五	〇〇〇,〇〇二,九四	目 年 四
四八一,八五七	四二〇,〇四三八	八〇二,八九〇九	〇〇四,八一八,五七	目 年 五
四二九,〇四〇一	九六一,〇五四,一一	三九〇,一九四,二一	〇四四,二九〇,四〇一	目 年 六
六〇八,二四三,一	四六八,〇七五,四一	〇七六,三一,六一	四八五,〇八二,四三一	目 年 七
一五六,六六六,一	六六一,三三三,八一	七一一,九九九,九一	四四一,五六六,六六一	目 年 八
二五五,五二一,〇二	〇七〇,一七一,二二	二二六,六八,四二	五八一,五五九,一〇二	目 年 九
七九八,二九三,二	九六八,一二三,六二	六六七,四一七,八二	七一七,九八二,九三二	目 年 十
二一四,二〇八,二	七三五,六二八,〇三	九四九,八二六,三三	一四二,一四二,〇八二	目 年 一十
六九一,八四二,三	二六一,〇三七,五三	八五三,八七九,八三	四五六,九一八,四二三	目 年 二十
六六七,四三七,三	三二四,二八〇,一四	九八一,七一八,四四	八七五,六七四,五七三	目 年 三十
			一〇〇,九五五,四一四	下 表 一 第
五三〇,三七六,四五			八一七,九三〇,二一二	数, 金 積 引 差

此表ハ第一表ノ掲クル蓄積額ヲ元金ト為シテ貸付高ヨリ生入ル利子ノ内
 各割差分ノ金額トシテ漸次元加ハトシ第十三年度ニ至ル積金差額ヲ得
 然ノ最初支出ノ官金四拾万円ノ内進減セシ殘金ノ償還ヲシシ金ノ積額ノ概計ヲ掲ク

乙第三號

雇外國人手當金給與ノ儀上申

當使管内幌内炭山ヨリ小樽港迄ノ鉄道全線ノ内
同港ト札幌間鉄道建築積雪ノ時節ニ涉候テハ切
業上大ニ障碍不勘候間速ニ成功ヲ要シ雇外國人
土木師補助ブローン外五名儀日曜日ト雖モ從事
為致候ニ付テハ一層獎勵ノ為日曜日ニ限り右六
名ノ者ハ働越手當トシテ定式月給ノ外該給額ノ
一日當リハ八割ヲ加ハタル負額ヲ容歲十月廿四
日ヨリ以降起業基金煤田開採費ヨリ給與候條別
表相添此段上申候也

開拓長官黒田清隆代理

明治十四年一月十二日

開拓使三等出仕西村貞陽

乙三